

福 祉

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

新学習指導要領の実施を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習課程の実践

(2) 研究のねらい

I C T機器、視聴覚教材を活用し、生徒が主体的・対話的で深い学びにつながる授業展開の実践、検討の実施。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：社会福祉基礎（1年）

イ 単元名：子どもの権利と児童虐待

ウ 単元目標：子どもの権利条約と我が国の子ども家庭福祉に関する取組や課題について理解し、第三者として児童虐待が疑われる場面に直面した際にできることについて考察し、表現する。

エ 単元の評価規準： a:知識・技術 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
子どもの権利条約と我が国の取組や児童虐待への対応などの諸課題について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	児童虐待に直面した際の関わり方について、自身の役割や課題を発見し、解決する力を身に付けている。	児童虐待に直面した際の関わり方について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時間	学習内容	学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
				a	b	c		
1	1・2	子どもの権利	子どもの権利を保障するための日本における取組を理解し、今後の権利擁護についてあり方を考察する。	○		●	a:子どもの権利について理解し、適切に記述している。 c:子どもの権利の役割について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	ワークシート
2	3 (本時)	子どもの権利と児童虐待	視聴覚教材を活用し、児童虐待が疑われる場面に直面した際にできることについて考えることができる。		○	○	b:“児童虐待だと疑われる場面”に直面した時の虐待への気づきや自分の役割について、おおむね具体的に考察し、記述している。 c:虐待を疑う場面での自分の役割について、学んだことをおおむね活用し、具体的な表現をすることや、わかりやすい発表に向けて、粘り強く取り組もうとしている。	ワークシート (cの評価については、本時と単元終了時の変容を確認する。)
3	4	児童虐待への対応	児童養護の実態、児童虐待防止法について理解するとともに今後の対応の在り方を学ぶ。	○			a:児童の健全育成に向けた施策について理解し、正しい知識を身に付けている。	ワークシート
4	5・6	児童相談所と市町村の役割	児童福祉に関する市町村と児童相談所の役割、それらの機能と地域社会との関わりについて学ぶ。	○			a:児童相談所と市町村の役割と機能、地域社会との関わりについて理解している。	プリント

カ 授業実践例（3時間目/6時間）

- ・本時のねらい：児童虐待が疑われる場面に遭遇したときに、自身の役割や課題を発見し、解決に向けた具体的な対応について思考・判断・表現する力を身に付ける。
- ・本時の学習活動

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 導入（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問あなたは虐待を疑う場面に直面したとき、どのような対応をしますか。 ・ワークシートに自分の考えを記入する。 ・授業後に自分の行動・対応の変容を確認する。 <p>2. 展開1（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材の視聴前に、登場人物について簡単に説明する。 ・法務省チャンネル【人権啓発動画『『誰か』のこと じゃない。』児童虐待編】を視聴する。（※冒頭から約3分を視聴する。結末の解説部分は学習活動につなげるため、視聴しない。）視聴覚教材を視聴することで、取り組む課題のイメージを共有する。 <p>URL：https://www.youtube.com/watch?v=saDIFthyd1E（令和4年10月21日取得）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材を見て、気になったところについてメモをとる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><メモを書くにあたってのポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・翔太くんが困っていたことは何か、気付いたことを書く。 ・翔太くんの保護者が翔太くんにしてしまったことは何か、気付いたことを書く。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの①～③に自分の考えを記入する。 ①翔太くんの保護者の立場だった場合、“なぜこのようなことをしてしまった”のだろうか、気付いたことを書く。 ②あなたが美緒さんの立場で発見者だった場合、“あなたができること”は何か考えを書く。 ③メモや①、②の状況に気付き、“対応しようとするときに悩んでしまうこと”は何か、考えたことを書く。 <p>3. 展開2（25分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で役割分担を行う。 ・個人で考えた内容をもとに、グループで検討を行う。 ・検討した結果をもとに、グループ毎に意見をまとめ、発表・共有する。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>4. まとめ（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループから出た意見をもとに、自分たちが出来ることについて確認する。 ・“対応としてできそうなこと”をまとめる。 ・一人で対応するのではなく、悩んだら相談し、複数で対応できるように促す。 ・頼る場所として、外部機関の連絡先を伝える。 	<p>主体的に学習に取り組む態度 (ワークシート)</p> <p>思考・判断・表現 (ワークシート)</p>

研究実施校：神奈川県立綾瀬西高等学校（普通科・全日制課程）

実施日：令和4年10月21日（金）

授業担当者：三品 隆広 総括教諭

○本時の評価規準

【思考・判断・表現】

学習活動における具体的評価規準	“児童虐待だと疑われる場面”に直面した時の虐待への気付きや自分の役割について、おおむね具体的に考察し、記述している。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	“児童虐待だと疑われる場面”に直面した時の虐待への気付きや自分の役割について、具体的に考察し、分かりやすく表現している。
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て	“児童虐待だと疑われる場面”に直面した時の虐待への気付きや自分の役割について、視聴覚教材の内容を振り返りながら、虐待を疑う場面や自分の役割について考えることができるよう支援する。

【主体的に学習に取り組む態度】

学習活動における具体的評価規準	虐待を疑う場面での自分の役割について、学んだことをおおむね活用し、具体的な表現をすることや、わかりやすい発表に向けて、粘り強く取り組もうとしている。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	虐待を疑う場面での自分の役割について、学んだことを活用し、具体的な表現をすることや、わかりやすい発表に向けて粘り強く取り組もうとしている。
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て	虐待を疑う場面での自分の役割について、視聴覚教材を活用しながら、自分の役割に気付くように支援する。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

本時の授業では、生徒が具体的なイメージを持ち、主体的な学習に向けた視聴覚教材等の教材研究及び授業展開に主眼を置き、動画視聴やグループワーク等の学習活動を展開した。評価については、動画視聴後のグループワークや発表等の学習活動で、虐待を疑う場面での自分の役割について具体的に表現しているかをワークシート等で確認して評価した。

ア 動画の活用による生徒の共通理解の促進

本時の単元が「子どもの権利と児童虐待」となっている。その中で、「子ども」「虐待」について、定義があるものの、各々の生徒がイメージする「子ども」「虐待」は異なっていると考えられた。そのため、法務省から配信されている動画を生徒が視聴することで、対象となる子どもや、どのような場面が虐待の疑いがある状況なのかを確認することができた。このことにより、共通の認識をした上でグループワークにつなげられたので、自然と生徒が発言する場面が見られた。

イ グループワークにおける生徒の主体性

動画の具体的な場面を挙げて、虐待の疑いがあるのではないかと、というグループワークができていた。また、動画に登場する人物について、生徒自身が登場人物の中の誰の立場ならどう考えるか、どう行動できるのかを考えを深めていた。動画の内容で分かりにくい点については、グループ内で生徒同士が状況を確認しあうことで理解を深めていた。このことから、動画視聴により、生徒のグループワークを活性化させる動機付けの材料となることが考えられる。

実際に、グループワークを行う前までは、何を伝えたい動画なのか分からないという生徒がいた。しかし、グループワークを通して、他の生徒からの情報提供及び情報の整理を行う中で、そうした生徒も動画の内容について理解を深めることができた。動画だけを示すのではなく、動画を他者と情報共有することで、認識の違いを修正すると同時に、生徒が他者に説明する能力の育成に効果があったと考える。

ウ 本時における生徒の変容

本時の最初に子どもの権利や虐待に関する確認事項及び復習を行った上で、「虐待を疑う場面に直面した時に、どのような対応をしますか」という発問を行った。その際、生徒の記述からは「相談に応じる」「生徒を気にかける」「見なかったことにする」「虐待なのかどうか、本人に確認する」といった意見が挙げられた。虐待について生徒自身が虐待を受けている子どもに対してできることを考えたものの、内容が抽象的なものや、虐待の真偽について子ども本人への確認を行おうとする内容や、虐待自体から目をそらす内容についても意見が挙げられた。生徒自身がどの立場で考えるのかということと虐待の定義が曖昧であるためにこれらの考えが記述されたのではないかと考えた。

その後、虐待が疑われる場面の動画について視聴し、虐待の定義と立場を明確にした上で再度、どのような対応ができるか考える機会を設けた結果、「声をかけたり、気づかたりする」、「様子を見たりする」、「相談できる場所に話をする」、「信頼できる大人に相談する」、「本人の話を聞く」、「保護者の様子を確認する」「とにかくすぐに、相談所に電話する」といった記述へと変容していた。

これらの変容について、「虐待を受けている子ども自身が、これからさらに虐待を受けるようなことが無いようにすること」や、「主観だけで判断するのではなく、専門的な機関や立場からの対応が事件や事故を防げるのではないかと」といった視点に生徒自身が気付いたからではないかと考えた。

エ 課題

今回の研究授業では、ワークシートの記述内容から生徒の変容を読み取ることを行ったが、記述内容は多様であるため、簡単には数値化できない。評価を行う際にどのような点について生徒が成長し、より深い学びにつながったのかを示しにくい点は今後の課題であり、生徒の変容について数値を用いた形での評価方法の対応を今後の研究テーマとしても設定する必要があると考える。虐待などの授業内容の扱い方、説明の方法について、生徒への配慮が必要な点は、どの授業でも常に課題であると考えている。

Q あなたが児童虐待を疑う場面に遭遇したとき、どのような対応をしますか？

1 【人権啓発動画『『誰か』のこと じゃない。』児童虐待編】を視聴して考えよう
<メモ:翔太くんがこまっていたこと、保護者が翔太くんにしてしまったことなど>

① 翔太くんの保護者の立場だった場合、“なぜこのようなことをしてしまった“のだろうか、気づいたことを書きましょう。

② あなたが美緒さんの立場で発見者だった場合、“あなたができること“は何か考えを書きましょう。

③ メモや①、②の状況に気づいたとき、“対応として悩んでしまうこと“は何か、考えたことを書きましょう。

2 グループで考えを共有し、自分たちができることを検討しよう。

①	
②	
③	

○ 他グループの参考になった意見を書きましょう。

G	
G	
G	
G	
G	

3 自分たちにできることは何か考えよう。

○ 虐待が疑われる場面に直面した際に、第三者として“自分が”できそうなことを考えよう！

【 G】 記録用紙

①	
②	
③	

<発表用原稿>

<p>私たちのグループは、_____だと思いました。</p> <p>なぜなら、_____だ</p> <p>と考えたからです。</p>
--